(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号

特許第3644705号
(P3644705)

(45)発行日　平成17年5月11日(2005.5.11)　(24)登録日　平成17年2月10日(2005.2.10)

(51)Int.Cl.[7]	F I	
A45D 40/04	A45D 40/04	B
A45D 40/00	A45D 40/00	X
A45D 40/20	A45D 40/20	F
	A45D 40/20	G

請求項の数 9　(全 15 頁)

(21)出願番号　特願平6-288617
(22)出願日　平成6年10月31日(1994.10.31)
(65)公開番号　特開平8-126526
(43)公開日　平成8年5月21日(1996.5.21)
審査請求日　平成13年10月22日(2001.10.22)

(73)特許権者　000252090
鈴野化成株式会社
東京都新宿区下落合１丁目３番２２号
(73)特許権者　000210573
竹内工業株式会社
東京都墨田区八広２－５９－２
(74)代理人　100075513
弁理士　後藤　政喜
(72)発明者　大庭　淳
東京都新宿区下落合１－３－２２
鈴野化成株式会社内
(72)発明者　八木　強
東京都墨田区八広２丁目５９番２号
竹内工業株式会社内

最終頁に続く

(54)【発明の名称】棒状化粧材繰出容器

(57)【特許請求の範囲】

【請求項１】

棒状化粧材の尾部を支持する化粧材支持皿、及び、この化粧材支持皿から下方に伸びる該支持皿よりも外径の小さいオネジ付きの押棒、からなる皿付押棒と、

棒状化粧材が出入りする先端口を有するとともに、化粧材支持皿を軸方向摺動自在に案内する内孔を備えた先筒スリーブと、

皿付押棒のオネジと螺合するメネジを備えたメネジ筒と、を具備し、

上記皿付押棒と先筒スリーブとの間には、両者を軸方向摺動自在かつ回動不能に係合させる回り止め係合部が設けられており、

上記先筒スリーブには、上記メネジ筒を回動自在に連結する回動連結部が設けられており、

上記先筒スリーブとメネジ筒とを相対的に回転させることによって上記皿付押棒を進退させるようにした容器ユニットを備え；

上記押棒の尾部にコの字状のスリットによって押棒の外周面に突出した外突部を有する舌状の上記押棒のベンドストッパーが設けられており、

上記メネジ筒のメネジ部下方には当接面が設けられており、

上記容器ユニットの組立時に上記押棒を上記メネジ筒に通す際は、上記押棒のベンドストッパーは内側にベンドして上記メネジ部を通過可能であり、

上記容器ユニットの組立後は、上記押棒のベンドストッパーは元の形態に復帰して上記押棒のベンドストッパーが前記メネジ筒の当接面に当接することにより上記皿付押棒の繰

り出し限を画することを特徴とする棒状化粧材繰出容器。
【請求項２】
上記押棒外周面のベンドストッパーのさらに尾端側に、上記メネジと螺合する組立案内用の突起が設けられていることを特徴とする請求項１記載の棒状化粧材繰出容器。
【請求項３】
棒状化粧材の尾部を支持する化粧材支持皿、及び、この化粧材支持皿から下方に伸びる該支持皿よりも外径の小さいオネジ付きの押棒、からなる皿付押棒と、
棒状化粧材が出入りする先端口を有するとともに、化粧材支持皿を軸方向摺動自在に案内する内孔を備えた先筒スリーブと、
皿付押棒のオネジと螺合するメネジを備えたメネジ筒と、を具備し、
上記皿付押棒と先筒スリーブとの間には、両者を軸方向摺動自在かつ回動不能に係合させる回り止め係合部が設けられており、
上記先筒スリーブには、上記メネジ筒を回動自在に連結する回動連結部が設けられており、
上記先筒スリーブとメネジ筒とを相対的に回転させることによって上記皿付押棒を進退させるようにした容器ユニットを備え；
上記メネジ筒の外周面には、突出した外突部を有するベンドストッパーを備え、
上記メネジ筒の外周に嵌合する外筒を設け、この外筒の内孔に段部を一体に形成し、
上記容器ユニットと上記外筒との組立時には、上記メネジ筒のベンドストッパーは内側にベンドして上記外筒の内孔の上記段部を通過可能であり、
上記容器ユニットと上記外筒の組立後には、上記メネジ筒のベンドストッパーは元の形態に復帰して上記外筒の上記段部に当接して上記メネジ筒と上記外筒とが軸方向に係止されるとともに、上記外筒の内孔と上記メネジ筒の外周面とが係合することにより上記容器ユニットと上記外筒とが回動不能に係止されることを特徴とする棒状化粧材繰出容器。
【請求項４】
棒状化粧材の尾部を支持する化粧材支持皿、及び、この化粧材支持皿から下方に伸びる該支持皿よりも外径の小さいオネジ付きの押棒、からなる皿付押棒と、
棒状化粧材が出入りする先端口を有するとともに、化粧材支持皿を軸方向摺動自在に案内する内孔を備えた先筒スリーブと、
皿付押棒のオネジと螺合するメネジを備えたメネジ筒と、を具備し、
上記皿付押棒と先筒スリーブとの間には、両者を軸方向摺動自在かつ回動不能に係合させる回り止め係合部が設けられており、
上記先筒スリーブは上記メネジ筒と回動自在に連結されており、
上記先筒スリーブとメネジ筒とを相対的に回転させることによって上記皿付押棒を進退させるようにした容器ユニットを備え；
上記メネジ筒の尾部に設けられ、該筒の外周面に突出した外突部を有するベンドストッパーを備え、
上記メネジ筒のベンドストッパーと当接する下端が設けられたキャップ嵌合部材、並びに上記キャップ嵌合部材の外周に固着されたハカマ部材と、とからなる外筒を備え、
上記容器ユニットと上記外筒の組立時には、上記キャップ嵌合部材の上記下端を上記メネジ筒のベンドストッパーが内側にベンドして通過し、
上記容器ユニットと上記外筒の組立後には、上記メネジ筒のベンドストッパーは元の形態に復帰して上記下端に当接して上記容器ユニットは上記外筒に軸方向に係止されるとともに、上記外筒と上記メネジ筒との間に設けられた回り止め部によって上記容器ユニットと上記外筒とが回転方向に係止されることを特徴とする棒状化粧材繰出容器。
【請求項５】
上記外筒に装着可能なキャップを備え、
上記ベンドストッパーと上記段部もしくは上記下端との当接関係が、着脱可能となっており、上記外筒及びキャップが容器本体を、上記容器ユニットがカートリッジを形成することを特徴とする請求項３又は４記載の棒状化粧材繰出容器。

【請求項６】
上記先筒スリーブとメネジ筒の回動部に、両者の回動に適当な抵抗を与える回動抵抗部材が設けられていることを特徴とする請求項１～５のいずれか一つに記載の棒状化粧材繰出容器。
【請求項７】
上記回動抵抗部材が、メネジ筒に一対の対向するスリットを入れ、そのスリット間の帯状部にスリーブ内径と干渉する突起を形成することにより構成されていることを特徴とする請求項６記載の棒状化粧材繰出容器。
【請求項８】
上記化粧材支持皿及び押棒の芯部に貫通孔が開けられており、この孔を通して先筒スリーブ内に化粧材を充填可能であることを特徴とする請求項１～７のいずれか一つに記載の棒状化粧材繰出容器。
【請求項９】
上記先筒スリーブに設けられた先端口と、
上記化粧材支持皿に尾部を保持された棒状化粧材と、を備え、
上記皿付押棒が進出することにより上記棒状化粧材が上記先端口から繰出されることを特徴とする請求項１～８のいずれかに一つに記載の棒状化粧材容器。
【発明の詳細な説明】
【０００１】
【産業上の利用分野】
本発明は、棒状化粧材（口紅やアイライン等）の繰出容器に関する。特には、部品点数が少なく、かつ組立の容易な棒状化粧材繰出容器に関する。
【０００２】
【従来の技術】
図５は、従来の棒状化粧材繰出容器の繰出機構の一例を示す断面図である。棒状化粧材（図示されず）の尾部を支持する支持皿１７が、押棒２１に駆動されて、先筒スリーブ１５の中を上下に摺動する。これによって、支持皿１７の中に差し込まれている棒状化粧材が、スリーブ１５の先端口１１から出入りする。
【０００３】
押棒２１の上下駆動は、押棒２１のオネジ１１１と、メネジ筒１１７のメネジ突起１１３とを相対的に回転させることにより行う。図５の棒状化粧材繰出容器においては、押棒２１は支持皿１７と一体物であり、支持皿１７と先筒スリーブ１５との間は、支持皿１７尾部外面の回り止め突起８３と、先筒スリーブ１５内面の回り止め溝８１とが係合して回り止めとなっているので、結局押棒２１と先筒スリーブ１５とは同期回転する。したがって、先筒スリーブ１５とメネジ筒１１７とを相対回転させてやれば、棒状化粧材を駆動することができる。
【０００４】
このような棒状化粧材繰出容器において問題となるのが、押棒２１の繰り出しエンドの決め方である。繰出容器を繰り出しているうちに、押棒２１がメネジ筒１１７から抜け出してしまっては、マズイ。エンドの決め方には様々なやり方がある。例えば、支持皿１７と先筒スリーブ１５との間に係止段部を設け、そこに先筒スリーブ１５を当てて止めてしまうやり方がある。しかし、先筒スリーブ１５や支持皿１７は薄いので、有効な段部を設けることは難しい。
【０００５】
そこで、一般的には、図５のように、押棒２１の尾端に径大部ストッパー（１１５）を設けて、これとメネジ筒１１７の一部（例えばメネジ突起１１３そのもの）とを当接させて、繰り出し限を定めるストッパーとしている。
【０００６】
ところが、部品点数削減のために、支持皿１７と押棒２１とを一体物とする場合であって、支持皿１７の外径を押棒２１の外径よりも大とする場合（図５のような場合）、押棒２

１とメネジ筒１１７との組立てに問題が生じる。すなわち、押棒２１をメネジ筒１１７に通す際に、支持皿１７かストッパー１１５のどちらかが、メネジ突起１１３と干渉してしまう。

【０００７】

図５の棒状化粧材繰出容器においては、この問題を解決するため、メネジ筒１１７を割り（スリット）入りとしている。すなわち、メネジ筒１１７の上端部に軸方向の割り１１９を入れ、押棒２１尾部のストッパー１１５をメネジ筒１１７内に入れる時は、この割１１９を開いて左右のメネジ突起１１３、１１３’同士の間隔を広げることとしている。

【０００８】

図６は、他の従来例（実開昭59-130612 号）の棒状化粧材繰出容器の構造を示す部分破断分解斜視図である。この棒状化粧材繰出容器も、基本的な繰り出しメカニズムは図５の棒状化粧材繰出容器と同じである。すなわち、化粧材支持皿１４１の下部に一体に押棒１４３が連結されており、押棒１４３の尾部にはストッパー１４５が突出している。支持皿１４１は、先筒スリーブ１４９の内面を摺動する。押棒１４３外面のオネジは、メネジ筒１５７上部内面のメネジ１５５と螺合する。

【０００９】

図６の棒状化粧材繰出容器の押棒１４３のストッパー１４５は、下向きのクサビのような形をしている。すなわち、ストッパー１４５の下側面はテーパ１４６となっており、上側は横に張り出す当接面１４４となっている。このストッパー１４５と係合するのが、先筒スリーブ１４９内面に張り出しているフランジ１５１である。

【００１０】

すなわち、フランジ１５１の内側のフランジ穴１５３は、ちょうど押棒１４３の尾端のストッパー１４５部の断面と対応する形状をしている。ただし、フランジ穴１５３の平行して対向する平行壁間の間隔は、押棒１４３のストッパー１４５部の幅よりもやや狭くなっている。なお、押棒１４３の裏側にも、同様のストッパーが設けられている。

【００１１】

したがって、先筒スリーブ１４９に押棒１４３を組込む時は、支持皿１４１を下に押して、押棒１４３のストッパー１４５が、先筒スリーブ１４９のフランジ穴１５３を通るようにする（圧入する）。ストッパー１４５の下のテーパ１４６は、圧入をやりやすくするためのものである。そして、ストッパー１４５がフランジ穴１５３を通過した後は、ストッパー１４５上面の当接面１４４がフランジ１５１の下面に当接して、押棒１４３が先筒スリーブ１４９から抜け出さなくなる。これで、押棒１４３の繰り出し端が定まる。

【００１２】

図７は、他の従来例（実開昭59-31316号）の棒状化粧材繰出容器の構造を示す断面図である。この繰出容器の繰り出しメカニズムも、基本的には、他の従来例と同様である。すなわち、押棒（中空）１２５の尾部にはオネジ状突起１２６が立設されており、この突起１２６がメネジ筒１２０内面のメネジ１３１と螺合している。押棒１２５の外面には、縦溝１２７が切られており、この溝１２７には、回転筒１２２上端の係合突起１２８が係合している。この状態で、回転筒１２２とメネジ筒１２０とを相対的に回転させれば、押棒１２５が繰り出される。

【００１３】

図７の棒状化粧材繰出容器においては、繰り出し端は、基本的には、係合突起１２８と縦溝１２７下端の当接により定まる。しかし、この当接関係は極めて弱いので、少し力を入れて容器をねじると、さらに押棒が繰り出される恐れが大いにある。そこで、図７（Ａ）に示されているように、強い力がかかると、オネジ状突起１２６の部分が内側にベンドして、突起１２６とメネジ１３１との螺合がはずれ、ネジが空回りしてしまう。この空回りにより、押棒１２５の繰り出し端が実質的に定められる。

【００１４】

【発明が解決しようとする課題】

上述の図５の棒状化粧材繰出容器には次のような問題点がある。すなわち、メネジ突起１

１３が割り（スリット）１１９によって分割されているため、メネジとオネジの接触をタイトにすると、オネジがメネジのパーティングライン等に引っかかりやすく、回転にやや円滑さを欠く。また、メネジ筒１１７の割り１１９を広げながら押棒２１をメネジ筒１１７中に組み込まなければならないので、組立に難がある。

【００１５】

上述の図６の棒状化粧材繰出容器には次のような問題点がある。すなわち、ストッパー１４５をフランジ穴１５３に通す際に単に圧入するだけなので、ストッパー１４５をあまりフランジ穴１５３よりは大きくはできない。そのため、当接面１４４とフランジ１５１下面との当接関係も甘くならざるを得ない。また、圧入時には、支持皿１４１の上端面を下に押すこととなるが、この際に薄い支持皿１４１が変形する恐れがある。

【００１６】

上述の図７の棒状化粧材繰出容器には次のような問題点がある。すなわち、繰り出し端になる都度に、オネジ状突起１２６のあるベンド片１３０が曲がることとなると、ベンド片１３０が内側に永久変形を起こす恐れがある。そうなると、わずかの抵抗で、オネジ状突起１２６とメネジ１３１との螺合が外れてしまい、棒状化粧材の繰り出しが不能となってしまう。

【００１７】

本発明は、上述の従来技術のような欠点のない、組立が容易で、部品点数が少なくて済む棒状化粧材繰出容器を提供することを目的とする。

【００１８】

【課題を解決するための手段】

本発明の一態様の棒状化粧材繰出容器は、

棒状化粧材の尾部を支持する化粧材支持皿、及び、この化粧材支持皿から下方に伸びる該支持皿よりも外径の小さいオネジ付きの押棒、からなる皿付押棒と、

棒状化粧材が出入りする先端口を有するとともに、化粧材支持皿を軸方向摺動自在に案内する内孔を備えた先筒スリーブと、

皿付押棒のオネジと螺合するメネジを備えたメネジ筒と、を具備し、

上記皿付押棒と先筒スリーブとの間には、両者を軸方向摺動自在かつ回動不能に係合させる回り止め係合部が設けられており、

上記先筒スリーブには、上記メネジ筒を回動自在に連結する回動連結部が設けられており、

上記先筒スリーブとメネジ筒とを相対的に回転させることによって上記皿付押棒を進退させるようにした容器ユニットを備え；

上記押棒の尾部にコの字状のスリットによって押棒の外周面に突出した外突部を有する舌状の上記押棒のベンドストッパーが設けられており、

上記メネジ筒のメネジ部下方には当接面が設けられており、

上記容器ユニットの組立時に上記押棒を上記メネジ筒に通す際は、上記押棒のベンドストッパーは内側にベンドして上記メネジ部を通過可能であり、

上記容器ユニットの組立後は、上記押棒のベンドストッパーは元の形態に復帰して上記押棒のベンドストッパーが前記メネジ筒の当接面に当接することにより上記皿付押棒の繰り出し限を画することを特徴とする。

【００１９】

本発明の棒状化粧材繰出容器における繰り出しメカニズムは、前述の従来の棒状化粧材繰出容器のそれと同様である。すなわち、化粧材支持皿・押棒（皿付き押棒）と先筒スリーブとが同期回転する。これらの部品とメネジ筒とを相対的に回転させると、押棒外面のオネジとメネジ筒内のメネジとが相対的に回転して、押棒が繰り出し引き込みされる。一方、本発明の特徴部分である押棒の繰り出し端に関しては、ベンドストッパーのストッパー外突部が、メネジ筒のストッパーの当接面に当接することにより定まる。この際には、部材中においてなんら変形は起こらない。また、組立時には、ベンドストッパーが内側にベンドするので、押棒を容易にメネジ筒内に通すことができる。この際のベンドはただ一回

（組立はただ一回）なので、このベンドに伴う永久変形の問題は生じない。

【００２０】

本発明の棒状化粧材繰出容器においては、上記押棒外周面のベンドストッパーのさらに尾端側に、上記メネジと螺合する組立案内用の突起が設けられていることが好ましい。この案内用の突起をメネジ筒内のメネジと螺合させてネジ込むように組み立てれば、スムーズに組立作業を行うことができる。

【００２１】

本発明の他の一態様の棒状化粧材繰出容器は、

棒状化粧材の尾部を支持する化粧材支持皿、及び、この化粧材支持皿から下方に伸びる該支持皿よりも外径の小さいオネジ付きの押棒、からなる皿付押棒と、棒状化粧材が出入りする先端口を有するとともに、化粧材支持皿を軸方向摺動自在に案内する内孔を備えた先筒スリーブと、

皿付押棒のオネジと螺合するメネジを備えたメネジ筒と、を具備し、

上記皿付押棒と先筒スリーブとの間には、両者を軸方向摺動自在かつ回動不能に係合させる回り止め係合部が設けられており、

上記先筒スリーブには、上記メネジ筒を回動自在に連結する回動連結部が設けられており、

上記先筒スリーブとメネジ筒とを相対的に回転させることによって上記皿付押棒を進退させるようにした容器ユニットを備え；

上記メネジ筒の外周面には、突出した外突部を有するベンドストッパーを備え、

上記メネジ筒の外周に嵌合する外筒を設け、この外筒の内孔に段部を一体に形成し、

上記容器ユニットと上記外筒との組立時には、上記メネジ筒のベンドストッパーは内側にベンドして上記外筒の内孔の上記段部を通過可能であり、

上記容器ユニットと上記外筒の組立後には、上記メネジ筒のベンドストッパーは元の形態に復帰して上記外筒の上記段部に当接して上記メネジ筒と上記外筒とが軸方向に係止されるとともに、上記外筒の内孔と上記メネジ筒の外周面とが係合することにより上記容器ユニットと上記外筒とが回動不能に係止されることを特徴とする。

【００２２】

この態様の棒状化粧材繰出容器においては、メネジ筒と外筒との間の係止にベンドストッパー構造を利用している。このため、メネジ筒や、あるいは、メネジ筒及び支持皿、押棒、先筒スリーブの組み立て体である容器ユニットと、外筒との組立が非常に楽である。なお、上述の押棒と先筒スリーブとの間の回り止め係合部は、押棒と先筒スリーブとが同期回転するものであれば、その位置・形状は問わない。

【００２３】

なお、従来の棒状化粧材繰出容器における、代表的な両者の組み立て方法は、容器ユニットをすべてハカマ部材内に組み込んだ後に、キャップ嵌合部材を圧入してユニット側の部品の脱落を防止するというものであった。この方法は、容器ユニット側に不良があると、高価な化粧外筒も含めて繰出容器全体がオシャカになるという欠点があった。

【００２４】

本発明の他の一態様の棒状化粧材繰出容器は、

棒状化粧材の尾部を支持する化粧材支持皿、及び、この化粧材支持皿から下方に伸びる該支持皿よりも外径の小さいオネジ付きの押棒、からなる皿付押棒と、

棒状化粧材が出入りする先端口を有するとともに、化粧材支持皿を軸方向摺動自在に案内する内孔を備えた先筒スリーブと、

皿付押棒のオネジと螺合するメネジを備えたメネジ筒と、を具備し、

上記皿付押棒と先筒スリーブとの間には、両者を軸方向摺動自在かつ回動不能に係合させる回り止め係合部が設けられており、

上記先筒スリーブは上記メネジ筒と回動自在に連結されており、

上記先筒スリーブとメネジ筒とを相対的に回転させることによって上記皿付押棒を進退させるようにした容器ユニットを備え；

上記メネジ筒の尾部に設けられ、該筒の外周面に突出した外突部を有するベンドストッパーを備え、
上記メネジ筒のベンドストッパーと当接する下端が設けられたキャップ嵌合部材、並びに上記キャップ嵌合部材の外周に固着されたハカマ部材と、とからなる外筒を備え、
上記容器ユニットと上記外筒の組立時には、上記キャップ嵌合部材の上記下端を上記メネジ筒のベンドストッパーが内側にベンドして通過し、
上記容器ユニットと上記外筒の組立後には、上記メネジ筒のベンドストッパーは元の形態に復帰して上記下端に当接して上記容器ユニットは上記外筒に軸方向に係止されるとともに、上記外筒と上記メネジ筒との間に設けられた回り止め部によって上記容器ユニットと上記外筒とが回転方向に係止されることを特徴とする。

【００２５】
この態様の棒状化粧材繰出容器の特徴は、外筒がキャップ嵌合部材とハカマ部材とからなる点である。このようにするのは、ハカマ部材やキャップ嵌合部材を美麗な金属製とするなど、外筒の意匠感・高級感を出すのに適しているからである。また、キャップ嵌合部材の下端面がストッパー当接部を兼ねるため、部品点数を減らすことができるという利点がある。

【００２６】
本発明の棒状化粧材繰出容器においては、上記外筒に装着可能なキャップを備え、上記ベンドストッパーと上記段部もしくは上記下端との当接関係が、着脱可能となっており、上記外筒及びキャップが容器本体を、上記容器ユニットがカートリッジを形成することとしてもよい。

【００２７】
この態様の棒状化粧材繰出容器では、外筒及びキャップ以外の部品の組立体である容器ユニットがカートリッジとなる。そして、棒状化粧材を使い切った後は、新しいカートリッジを取り替えることにより、外筒とキャップとは継続使用可能である。なお、この種の棒状化粧材繰出容器にあっては、意匠性・装飾性あるいは高級感を容器に与える観点から、外筒とキャップとは、高級な材料で手の込んだ作り方をすることが多い。そのため、カートリッジ式の棒状化粧材繰出容器は、経済性と高級感の両面を実現できる利点がある。

【００２８】
本発明の棒状化粧材繰出容器においては、上記先筒スリーブとメネジ筒の回動部に、両者の回動に適当な抵抗を与える回動抵抗部材が設けられていることが好ましい。上記回動抵抗部材によって得られる適当な抵抗により、繰出容器を回し過ぎて棒状化粧材を予期以上に繰り出し過ぎるようなことがなくなる。また、回転がしっくりとして、容器がガタ付くこともないので、容器の高級感が出る。

【００２９】
さらに本発明の棒状化粧材繰出容器においては、次の態様がある。すなわち、上記回動抵抗部材が、メネジ筒に一対の対向するスリットを入れ、そのスリット間の帯状部にスリーブ内径と干渉する突起を形成することにより構成されている。また、上記化粧材支持皿及び押棒の芯部に貫通孔が開けられており、この孔を通して先筒スリーブ内に化粧材を充填可能である。さらに上記先筒スリーブに設けられた先端口と、上記化粧材支持皿に尾部を保持された棒状化粧材と、を備え、上記皿付押棒が進出することにより上記棒状化粧材が上記先端口から繰出される。

【００３０】
【実施例】
以下、本発明の実施例を説明する。図１は、本発明の一事例に係る棒状化粧材繰出容器の内部構造を示す断面図である。この実施例の棒状化粧材繰出容器１は、大きく別けて、図の左側の容器ユニット３と、図の右側の化粧外筒５から構成されている。なお、図示されてはいないが、外筒の先にはキャップが付く。

【００３１】
容器ユニット３は、先筒スリーブ１５、化粧材支持皿１７、押棒２１、メネジ筒４１等の

主要部から構成されている。化粧材支持皿１７と押棒２１は一体物（皿付押棒）となっている。先筒スリーブ１５内には化粧材１３が充填されている。化粧材１３の尾部は、化粧材支持皿１７に挿入されて支持されている。化粧材支持皿１７が押棒２１に駆動されて先筒スリーブ１５内を上下すると、それに合わせて化粧材１３が先筒スリーブ１５の先端口１１から繰り出し引込みされる。

【００３２】

先筒スリーブ１５の下部は回り止め部２７となっている。回り止め部２７の内径は細くなっており、内面には縦溝である回り止め溝２５が軸方向に切られている。この回り止め溝２５は、押棒２１外面に軸方向に並んで配列された一群の突起２３と係合して、押棒２１と先筒スリーブ１５との回り止めとなる。すなわち、先筒スリーブ１５と押棒２１とは同期回転する。

【００３３】

先筒スリーブ１５の回り止め部２７のさらに下部は、回動連結部２９となっている。回動連結部２９の内径は比較的大きく、この内径部にメネジ筒４１のメネジ部３５を収容している。回動連結部２９の内面とメネジ部３５内面との間には、回動抵抗部材であるＯリング３３が組み込まれている。このＯリング３３によって、先筒スリーブ１５とメネジ筒４１との回動に適当な抵抗を与え、操作性を改善している。

【００３４】

回動連結部２９の尾端部内面には、連結突起３１が突設されている。この突起３１は、メネジ筒外面の連結溝３９と係合して、先筒スリーブ１５とメネジ筒４１とを回動自在に連結する。

【００３５】

化粧材支持皿１７は有底筒状をしており、その内部に化粧材１３の尾部を収納支持する。

【００３６】

押棒２１は、化粧材支持皿１７の尾端側に一体に設けられている。押棒２１の外面には、軸方向に伸びる一群の突起２３が、円周方向９０°振り分けで、４列突設されている。各列の上下に隣り合う突起２３同士の間隔は、一定のピッチとなっている。周方向に隣り合う突起の列は、半ピッチずつ段差をつけて配列されている。したがって、これの突起２３は、軸方向一線に配列されているとも言えるし、押棒２１外面に仮想のスパイラルを描くように配列されているとも言える。

【００３７】

押棒２１外周の一群の突起２３は、上述のように、軸方向一線の列となって、先筒スリーブ１５の回り止め溝２５と係合し、押棒２１と先筒スリーブ１５の回り止めとなる。さらに、突起２３は、メネジ筒４１のメネジ部３５内面のメネジ３７と螺合する。すなわち、一群の突起２３が形成する仮想のスパイラルと同じスパイラル（クリアランスはある）がメネジ部３５のメネジ３７として形成されているのである。つまり、押棒２１外面の一群の突起２３は、選択のしようによって、縦条の役割も果たすし、オネジの役割も果たす。

【００３８】

押棒２１の尾端部には、同部外周面から外に突出する外突部５２を有するベンドストッパー５３が設けられている。図３は、押棒の尾端部の詳細を示す側面図（図１の横から見た図）である。ベンドストッパー５３は、中空状の押棒２１の壁面に切り込まれたコの字状のスリット５１によって、舌状に形成されている。つまり、ベンドストッパー５３は、その根本（下側）を支持部とする片持ち梁となっているため、根本を中心として曲がり易くなっている。

【００３９】

ベンドストッパー５３の上部は、前述のとおり、外側に突出した外突部５２となっており、上端面の当接面５６は、後述するメネジ部３５下端の当接面３８と当接して押棒２１の繰り出し端を画する。

【００４０】

押棒２１のベンドストッパー５３の下にある突起５４は、組立案内用の案内突起である。

押棒２１をメネジ３７に通す際に、この案内突起５４をメネジ３７に螺合させながら通すと通しやすい。

【００４１】

メネジ筒４１の上部は、上述のとおり、メネジ部３５となっている。メネジ筒４１の中段外周部には、回り止め縦条４３が軸方向に多数切られている。この縦条４３は、外筒６９内面の回り止め縦条７１とカミ合って、メネジ筒４１と外筒６９とが回り止めされる。

【００４２】

メネジ筒４１の尾端部には、押棒２１尾端部のベンドストッパー５３と同様の構造のベンドストッパー５０が設けられている。すなわち、メネジ筒４１の側壁に、コの字状にスリット４７が入れられており、そのスリット４７に囲まれた部分がベンドストッパー５０となっている。ベンドストッパー５０の上部は外側に突出する外突部４９となっている。この外突部４９は、後述する外筒６９の内面の段部７３と当接してメネジ筒４１と外筒６９との軸方向係止を行う。

【００４３】

外筒６９は、容器ユニット３の下半部の外周に嵌合される。この外筒６９がなくても、容器ユニット３のみで棒状化粧材繰出容器１の基本的メカニズムは達成されている。外筒６９は、もっぱら装飾のためのものである。外筒６９は、円筒状をしており、その内孔６１にメネジ筒４１等が挿入される。外筒６９の上端面６２は、先筒スリーブ１５外周の段部１９と当接して、先筒スリーブ１５の挿入エンドを定める。

【００４４】

外筒６９の上部外面はキャップ嵌合部６３となっており、キャップ（図示されず）の尾端部を挿入してセットする。突起６５は、キャップとの間に適当な係止抵抗を与える。

【００４５】

外筒６９内面下部の回り止め縦条７１は、前述のとおり、メネジ筒４１外面の回り止め縦条４３と係合して、外筒６９とメネジ筒４１とを回り止めする。回り止め縦条７１の下の段部７３は、前述のとおり、メネジ筒４１尾部外面のベンドストッパー５０の外突部４９と当接して、メネジ筒４１を外筒６９内で軸方向に係止する。

【００４６】

図１の棒状化粧材繰出容器を使用して化粧材１３を繰り出す際は、外筒６９と先筒スリーブ１５とを相対的に回転させる（例えば、先筒スリーブ１５を左の指で持って固定し、外筒６９を右手の指で回す。）そうすると、先筒スリーブ１５、化粧材支持皿１７、押棒２１は回転せず、外筒６９、メネジ筒４１は回転する。そのため、押棒２１外面のオネジの働きもする一群の突起２３は、メネジ３７に押されて、押棒２１が軸方向に繰り出される（上昇する）。

【００４７】

押棒２１が上昇すると、押棒２１尾端のベンドストッパー５３も上昇し、ついには、メネジ部３５下端面である当接面３８に当接する。この時点で、押棒２１の繰り出しは不能となり、押棒の繰り出し限を画することとなる。押棒２１を引き込む時は、先筒スリーブ１５と外筒６９とを逆方向に回せば良い。なお、押棒２１の引き込みエンドは、化粧材支持皿１７の底が先筒スリーブ１５内の段部に当接することにより定まる。

【００４８】

なお、押棒２１及び化粧材支持皿１７の中芯部は中空となっているので、容器ユニットを組立てた後に、この中空孔を通して下から流動性の化粧材を先筒スリーブ１５内に注入することができる。

【００４９】

図２は、本発明の他の一実施例に係る棒状化粧材繰出容器の内部構造を示す断面図である。図１の棒状化粧材繰出容器と同様の部位は同じ符号で示されている。

【００５０】

図２の棒状化粧材繰出容器が、図１の棒状化粧材繰出容器と異なる点は以下である。

▲１▼外筒９０がキャップ嵌合部材９３とハカマ部材９５の組立品である。キャップ嵌合

部材９３は金属（しんちゅう、アルミニウム等）製の薄いパイプ状の部材である。ハカマ部材９５は、金属製の有底筒状部材である。両者はローレット嵌合や接着剤等で固着されている。

【００５１】

キャップ嵌合部材９３の上端部外面はキャップ嵌合部９１となっている。同部９１外面に、キャップ（図示されず）尾部の内面が嵌合し、キャップが係止される。また、キャップ嵌合部材９３の下端９７は、メネジ筒４１尾部のベンドストッパー５０上面と当接する。これによって、メネジ筒４１と外筒９０とは軸方向に係止される。キャップ嵌合部材９３の下部内面と、これに対面するメネジ筒４１の外面には、係合縦条（図示省略）が設けられており、回り止め部９９となっている。これによって、メネジ筒４１と外筒９０とは、回転方向に係止される。

【００５２】

▲２▼ 先筒スリーブ１５とメネジ筒４１との間の回動抵抗部材がベンド片上に形成されている。メネジ筒４１の下部外面には、抵抗突起８９が頭の丸い台のような形で設けられている。この抵抗突起８９は、１８０°振り分けで、メネジ筒４１の左右に設けられている。そして、左右の抵抗突起８９の頂上間の幅は、スリーブ内面８７の内径よりもやや広めに作られており、抵抗突起８９の頂上部はスリーブ内面８７と干渉する。この干渉が、先筒スリーブ１５とメネジ筒４１との間に回動抵抗を生む。

【００５３】

図４は、メネジ筒４１の抵抗突起８９の部分の詳細を示す側面図（図１の横から見た図）である。抵抗突起８９は、メネジ筒４１の側壁に切られた２本の平行スリット１０１にはさまれたベンド片１００上に盛り上がるように形成されている。前述のように、抵抗突起８９はスリーブ内面８７と干渉するので、ベンド片１００は、わずかに内側にベンドした状態である。したがって、そのベンドによる反力で抵抗突起８９の頂上はスリーブ内面８７に押し付けられる。そのため、その押し付け力に伴う適当な回転抵抗が得られる。

【００５４】

図４において、ベンド片１００の左右のメネジ筒４１の側面に丸く突出しているのはブレ止め突起８８である。この左右のブレ止め突起８８間の寸法は、ほぼスリーブ内面８７の内径と同じである。このブレ止め突起８８によって、メネジ筒４１が先筒スリーブ１５内でブレないようになっている。

【００５５】

▲３▼ 先筒スリーブ１５と押棒２１との回り止めは、化粧材支持皿１７外面の回り止め突起８３と、先筒スリーブ１５内面の回り止め溝８１との係合によってなされる。この場合、特別な回り止め係合部が不要なので、容器の長さをその分だけ短くできる。

【００５６】

▲４▼ 先筒スリーブ１５とメネジ筒４１との連結は、先筒スリーブ１５の内径側に突出する連結突条８５と、メネジ筒４１外径に切られた連結溝８６との係合によってなされる。

【００５７】

図２のメネジ筒４１尾部のベンドストッパー５０は、メネジ筒４１と外筒９０とを一度組立てた後は再度取り外しにくい形状をしている。ベンドストッパー５０の上面にテーパが付けられておらず、かつ、このベンドストッパーを上から下へ押したのではベンドしにくい構造となっているからである。このベンドストッパー５０のベンド構造を、図４の抵抗突起８９のベンド片１００のような構造にすれば、上から下にベンド片を押した場合にもベンド片が内側にベンドする構造となる。そうすれば、メネジ筒４１と外筒９０との取り付け取り外しが可能なカートリッジ式の棒状化粧材繰出容器とすることができる。

【００５８】

【発明の効果】

以上の説明から明らかなように、本発明の棒状化粧材繰出容器は以下の効果を発揮する。

▲１▼ 尾端にベンドストッパーのついた押棒を有する容器の場合、図５に示された従来

例のメネジに割り（スリット）を設ける必要が無いので、オネジがメネジのパーティングラインに引っ掛かることが無く、また図６に示されたフランジ孔にストッパーを圧入する方法と比較すると、押棒の繰り出エンドが確実に決まるので、操作性に優れた棒状化粧材繰出容器が得られる。また、組立ても容易である。

【００５９】

▲２▼メネジ筒と外筒（容器ユニットと化粧外筒）との組立てにベンドストッパー構造を採用した棒状化粧材繰出容器においては、特にキャップ嵌合部材とハカマ部材が高価な金属製の場合、容器本体はキャップ嵌合部材の圧入のみによって製品となるので、組立易さ、不良低減、生産性向上という様々な利点がある。更に、ベンドストッパーの構造を適当に設計することにより、カートリッジ式の容器にも、非カートリッジ式の容器にもなる。

【００６０】

▲３▼ 回動抵抗部材をスリット間の帯状部に設けた場合には、安定した摩擦抵抗を永く維持することが可能になり、またＯリング等の別部品が不要なので、部品点数の削減ができる。

【図面の簡単な説明】

【図１】本発明の一実施例に係る棒状化粧材繰出容器の内部構造を示す断面図である。

【図２】本発明の他の一実施例に係る棒状化粧材繰出容器の内部構造を示す断面図である。

【図３】押棒の尾端部の詳細を示す側面図（図１の横から見た図）である。

【図４】メネジ筒４１の抵抗突起８９の部分の詳細を示す側面図（図１の横から見た図）である。

【図５】従来の棒状化粧材繰出容器の繰出機構の一例を示す断面図である。

【図６】他の従来例（実開昭59-130612 ）の棒状化粧材繰出容器の構造を示す部分破断分解斜視図である。

【図７】他の従来例（実開昭59-31316号）の棒状化粧材繰出容器の構造を示す断面図である。

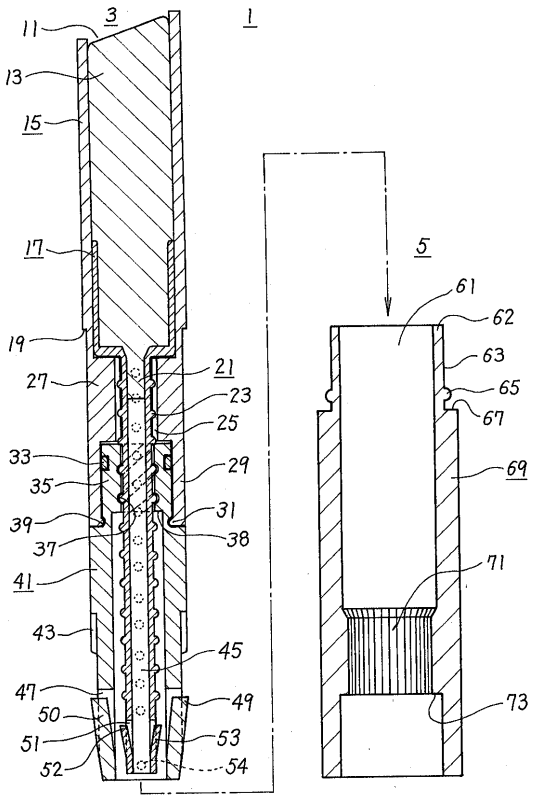
【符号の説明】

１ 棒状化粧材繰出容器
３ 容器ユニット
５ 化粧外筒
１１ 先端口
１３ 化粧材
１５ 先筒スリーブ
１７ 化粧材支持皿
１９ 段部
２１ 押棒
２３ 突起
２５ 回り止め溝
２７ 回り止め部
２９ 回動連結部
３１ 連結突起
３３ Ｏリング
３５ メネジ部
３７ メネジ
３８ 当接面
３９ 連結溝
４１ メネジ筒
４３ 回り止め縦条
４５ 貫通孔
４７ スリット

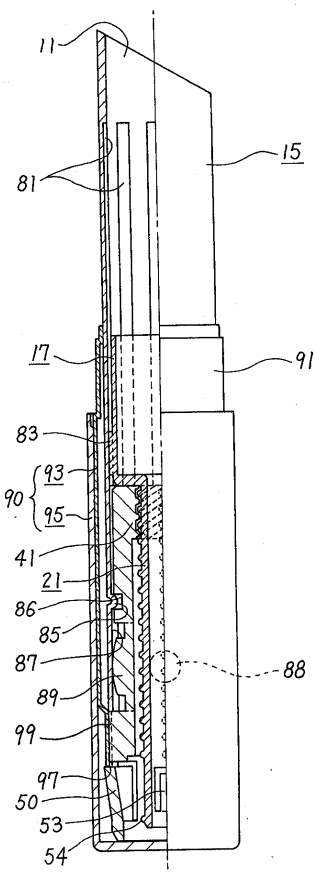
４９ 外突部
５０ ベンドストッパー
５１ スリット
５２ 外突部
５３ ベンドストッパー
５４ 案内突起
５６ 当接面
６１ 内孔
６２ 上端面
６３ キャップ嵌合部
６５ 突起
６７ 段部
６９ 外筒
７１ 回り止め縦条
７３ 段部
８１ 回り止め溝
８３ 回り止め突起
８５ 連結突条
８６ 連結溝
８７ スリーブ内面
８８ ブレ止め突起
８９ 抵抗突起の外筒
９１ キャップ嵌合部
９３ キャップ嵌合部材
９５ ハカマ部材
９７ キャップ嵌合部材下端
９９ 回り止め部
１００ ベンド片
１０１ スリット
１１１ オネジ
１１３ メネジ突起
１１５ ストッパー
１１７ 割り入りメネジ筒
１１９ 割り（スリット）
１２０ メネジ筒
１２２ 回転筒
１２５ 押棒
１２６ オネジ状突起
１２７ 縦溝
１２８ 係合突起
１２９ スリット
１３０ ベンド片
１３１ メネジ
１４１ 化粧材支持皿
１４３ 押棒
１４４ 当接面
１４５ ストッパ
１４６ テーパ
１４９ 先筒
１５１ フランジ

１５３　フランジ穴
１５５　メネジ
１５７　メネジ筒

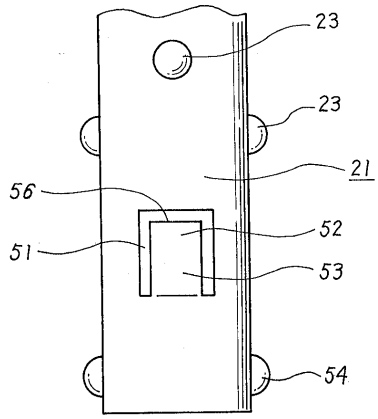
【図１】



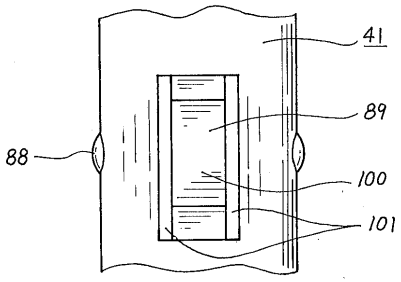
【図２】



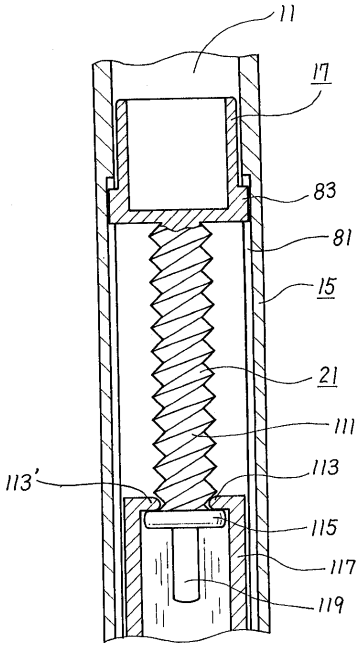
【図３】



【図４】

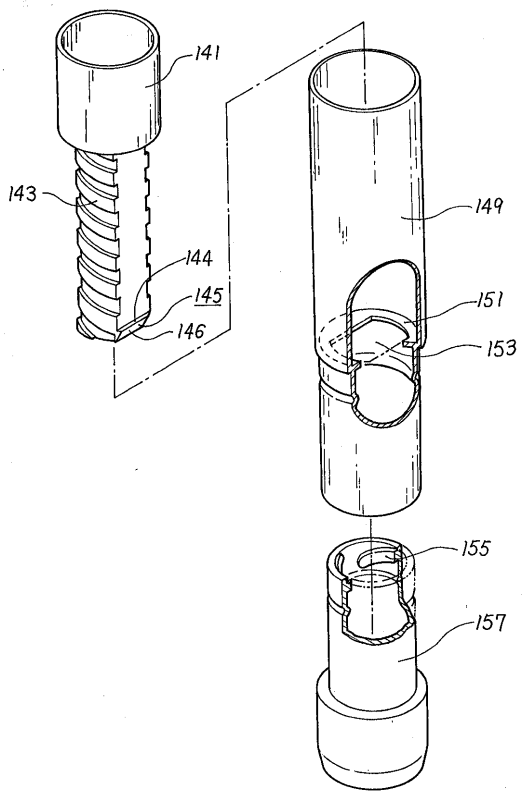


【図５】

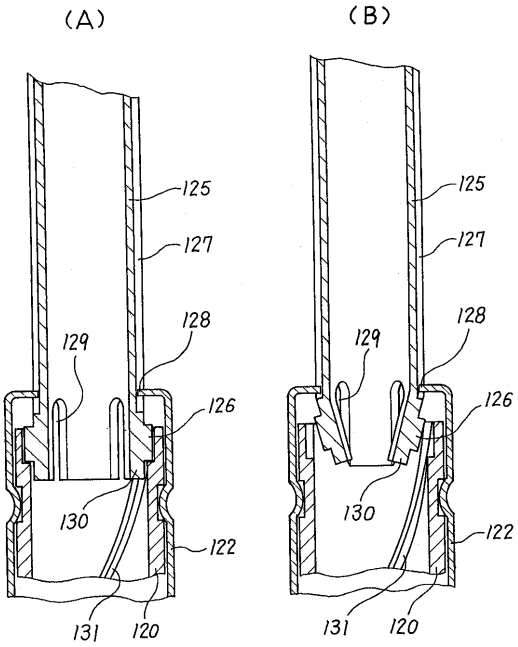


従来技術

【図６】



【図７】



実開昭59－31316号

フロントページの続き

審査官　氏原　康宏

(56)参考文献　実開昭５８－１３０６１４（ＪＰ，Ｕ）
実開昭５２－１２５９７１（ＪＰ，Ｕ）
実開昭６０－１４９３２２（ＪＰ，Ｕ）
特開平０６－２０９８２２（ＪＰ，Ａ）
特開平０６－２４５８１４（ＪＰ，Ａ）
実開昭６１－０３１３１２（ＪＰ，Ｕ）
実開昭５８－００８４１１（ＪＰ，Ｕ）

(58)調査した分野(Int.Cl.[7]，ＤＢ名)
A45D 40/00,40/04,40/20